【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成19年7月19日(2007.7.19)

【公開番号】特開2002-12518(P2002-12518A)
【公開日】平成14年1月15日(2002.1.15)
【出願番号】特願2000-193704(P2000-193704)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　8/00　(2006.01)
Ａ６１Ｑ　5/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　9/08　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/24　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/34　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　17/14　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　17/16　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　45/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　7/06
Ａ６１Ｋ　9/08
Ａ６１Ｋ　47/24
Ａ６１Ｋ　47/34
Ａ６１Ｐ　17/14
Ａ６１Ｐ　17/16
Ａ６１Ｋ　45/00

【手続補正書】
【提出日】平成19年6月4日(2007.6.4)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】請求項４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項４】
水難溶性の有効成分が育毛剤であることを特徴とする、請求項１～３何れか一項に記載の皮膚外用剤。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
【課題の解決手段】
本発明者らは、この様な状況に鑑みて、可溶化形態の皮膚外用剤取り分け毛髪用の皮膚外用剤に於いて、水難溶性有効成分の新規の可溶化手段を求めて、鋭意研究努力を重ねた結果、皮膚外用剤に水難溶性の有効成分と非イオン界面活性剤と燐脂質とを含有させることにより、この様な可溶化が為し得ることを見いだし、発明を完成させるに至った。即ち、本発明は以下に示す技術に関するものである。
（１）水難溶性の有効成分と非イオン界面活性剤と燐脂質とを含有することを特徴とする、可溶化形態の皮膚外用剤。
（２）エタノールの含有量が４０重量％以下であることを特徴とする、（１）に記載の皮

膚外用剤。
（３）非イオン界面活性剤の含有量が、１重量％以下であることを特徴とする、（１）又は（２）に記載の皮膚外用剤。
（４）水難溶性の有効成分が育毛剤であることを特徴とする、（１）～（３）何れか一項に記載の皮膚外用剤。
（５）化粧料であることを特徴とする、（１）～（４）何れか一項に記載の皮膚外用剤。
（６）毛髪用であることを特徴とする、（１）～（５）何れか一項に記載の皮膚外用剤。
以下、本発明について、実施の形態を中心に詳細に説明を加える。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
＜実施例１～３＞以下に示す処方に従って、本発明の皮膚外用剤である、毛髪用の化粧料を作製した。即ち、処方成分を８０℃で攪拌可溶化し、攪拌冷却して化粧料を得た。このものを１週間５℃、２０℃、４０℃に保存し可溶化状態を観察した。観察の基準は、○：異常なし、△：僅かな濁り又は結晶の析出、×：明らかな濁り又は結晶の析出を用いた。又、専門パネラーにより、使用感も調べた。使用感の項目は「べたつきのなさ」と「使用後の脂っぽさのなさ」であり、○：良い、△：やや難あり、×：悪いであった。比較例１は燐脂質（レシチン）のみ、比較例２は非イオン界面活性剤（ポリオキシエチレン（１０）フィトスタノール；ＢＰＳＨ１０）のみのものを用いた。結果を表１に示す。これより、本発明の皮膚外用剤である、毛髪用の化粧料は優れた可溶化特性と使用感とを有することがわかる。又、エタノールの含有量が２０重量％と低いにも関わらず、この様な優れた特性を有していることについても注目すべきである。

スティグマスタノールマルトシド	０．１重量部
燐脂質／非イオン界面活性剤＊	１　重量部
１，３－ブタンジオール	５　重量部
メチルパラベン	０．１重量部
エタノール	２０　重量部
水	７３．８重量部

＊詳細は表１に示す。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１４
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１５
【補正方法】削除
【補正の内容】